

非稼働病棟を有する医療機関の説明資料

1. 医療機関の状況

医療機関名	稲沢市民病院				
所在地	稲沢市長東町沼100番地				
各病棟の状況	病棟名	病床機能	病床数	病床稼働率	主な診療科
	3階南病棟	急性期	17床	72.8%	HCU
	3階北病棟	休床中	32床	0.0%	
	4階病棟	急性期	50床	93.0%	転倒骨折センター
	5階南病棟	急性期	46床	14.0%	感染症専用病棟
	5階北病棟	回復期	46床	83.2%	地域包括ケア病棟
	6階南病棟	急性期	46床	90.9%	内科系病棟
	6階北病棟	急性期	41床	54.4%	外科系病棟
			278床		
地域における役割	地域の中核病院として急性期医療の充実に努めるとともに、回復期の役割も担いつつ、地域医療機関との円滑な連携を図り、地域全体としての最適な医療を提供する。				

2. 非稼働病棟の状況

非稼働開始時期	令和元年10月
非稼働の理由	病床稼働率の低下に伴い、医療スタッフの集約による効率化のため、一時的に休床した。その後、新型コロナウイルス感染症対応により、開床に至らなかった。
今後の予定	再稼働
時期	令和7年度中

(以下、再稼働の場合のみ記載)

再稼働後の機能	急性期
再稼働に向けた取組	今後、高齢者の増加により増えることが予想される疾患に対応するため、より安全で質の高い医療を提供できるよう、既存病棟の診療科編成も視野に入れつつ、病棟の再稼働に向け、診療体制の整備を進めている。
病棟維持の必要性	3階北病棟については、新型コロナウイルス感染症がまん延したことに伴い、感染症患者を受け入れるために一時的に休棟していたが、感染状況が収束したため、再稼働に向けての調整を進めている。同フロアにはHCU病棟があることから、急性期として再稼働することで、特に今後増加する高齢者の緊急入院・治療に対応することができ、より効率的な運用が可能となるものである。 尾張西部医療圏においても、今後、その重要性が増すと見込まれる高齢者救急については、二次救急患者は稲沢市にある稲沢厚生病院と当院が担い、三次救急患者は一宮市にある高次機能病院に担っていただくといった医療圏の中での役割分担が確立されていることから、急性期としての病棟維持が必要であると考えられる。